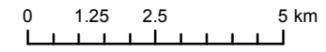
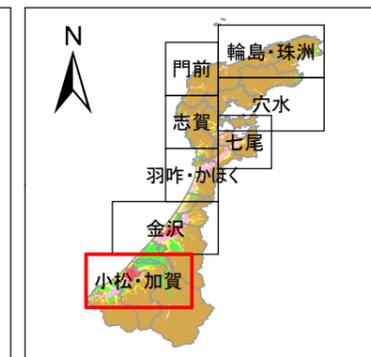
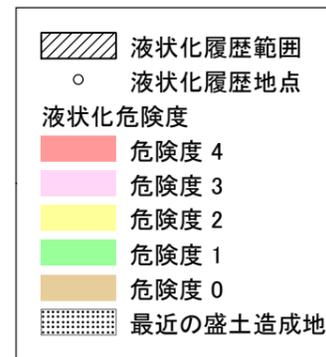


小松・加賀地域

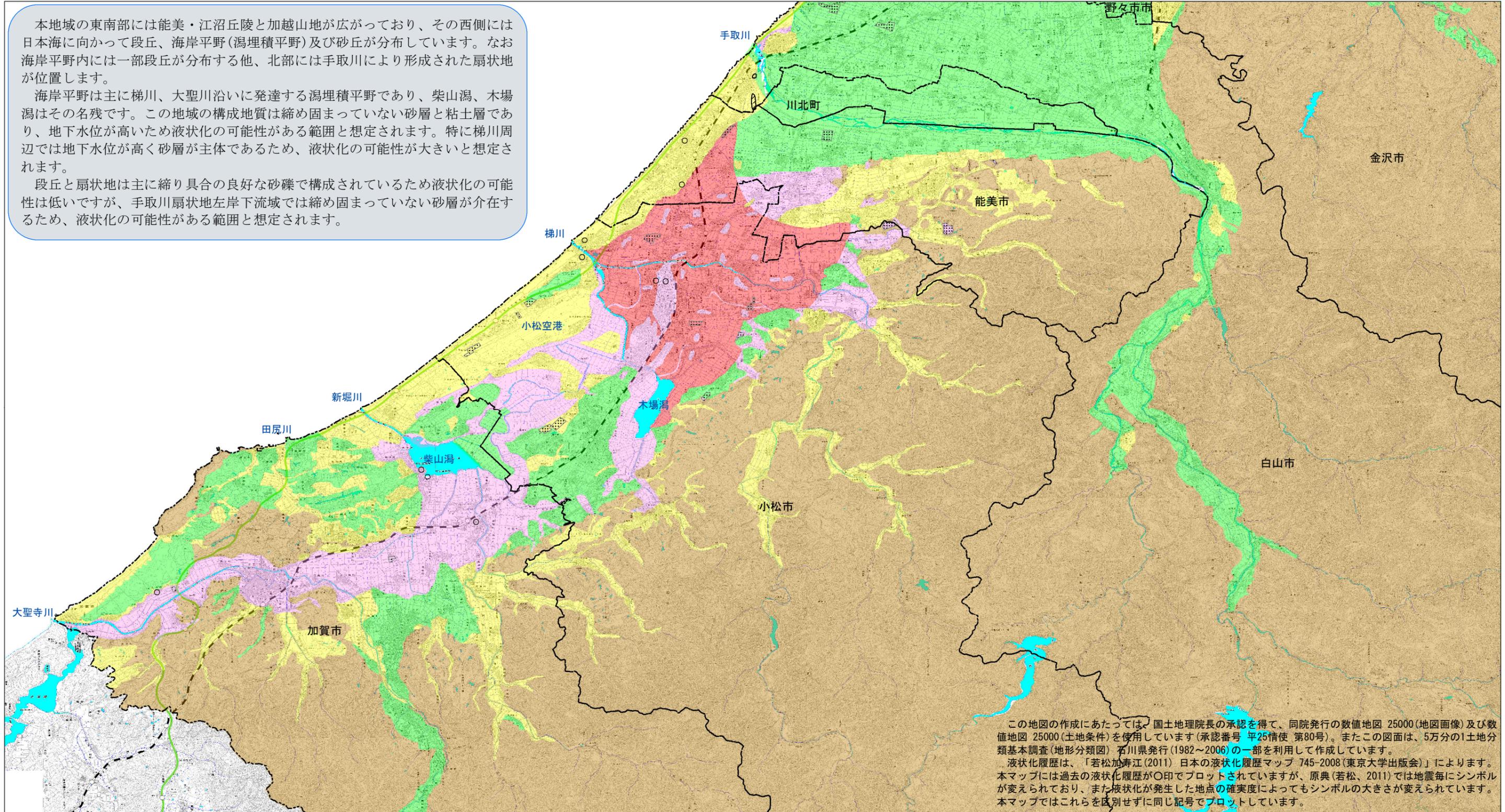
液状化しやすさマップ



本地域の東南部には能美・江沼丘陵と加越山地が広がっており、その西側には日本海に向かって段丘、海岸平野(潟埋積平野)及び砂丘が分布しています。なお海岸平野内には一段丘が分布する他、北部には手取川により形成された扇状地が位置します。

海岸平野は主に梯川、大聖川沿いに発達する潟埋積平野であり、柴山潟、木場潟はその名残です。この地域の構成地質は締め固まっていない砂層と粘土層であり、地下水位が高いため液状化の可能性がある範囲と想定されます。特に梯川周辺では地下水位が高く砂層が主体であるため、液状化の可能性が大きいと想定されます。

段丘と扇状地は主に締め具合の良い砂礫で構成されているため液状化の可能性は低いですが、手取川扇状地左岸下流域では締め固まっていない砂層が介在するため、液状化の可能性がある範囲と想定されます。



この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図)石川県発行(1982~2006)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せず同じ記号でプロットしています。